

「その他の居室」が複数ある場合で自然風の利用の程度が異なる場合の評価方法について

最終更新日：平成 25 年 2 月 15 日

「その他の居室」が複数ある場合で自然風の利用の程度が異なる場合の評価方法について、それぞれの居室の自然風の利用の程度を評価し、下表の優先順位の最も高い（値の小さい）評価を適用すること。

表 「その他の居室」が複数ある場合で自然風の利用の程度が異なる場合の評価の優先順位

優先順位	自然風の利用の程度
1	自然風を利用しない
2	自然風を利用する（換気回数 5 回/h 相当以上）
3	自然風を利用する（換気回数 20 回/h 相当以上）

主旨：「その他の居室」が複数ある場合で自然風の利用の程度が異なる場合は、冷房負荷の軽減について厳しい側（安全側）を優先して評価することとしました。